

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 異様さへの異和感にひそむたいせつなこと

あけましておめでとうございます。

<パソコン>という異様な通称が定着した頃、やはり異様な二つの原則が恐ろしい勢いで日本語入力作法を支配したことを少し振り返ります。

ローマ字入力とタッチタイピングです。五十音より数が少ないから早くキーが打てるとか指が無意識に動くようになれば文章が早く作成できるという程度の理由で、IT 機器への入門にはこの両原則がほぼ強制されるようになりました。

プログラマーならともかく本当にそんなスピードのための特殊なプロセスが必要なのかと茶化す以前に、日本人が「雨」を表示するのに「a m e」と打って変換する、あるいは文字の選択や指定の意識なく指が自動的に動いて文章が表示されてゆく、という異様さがもう少し意識されてもよかったと思うのですが、人々は不思議なくらい従順にこの両原則に拝跪していった感がありました。

かつてあるインフラシステムの開発・普及を担当したとき、高齢層に対する端末機器リテラシーにあたって直面したのがこの両原則への抵抗でした。私は、加除修正、転記、等々の IT ツール便益を最大限に享受しながらも、入力は右手中指一本、左手はシフト操作のみ、というオペレーションを墨守し続けていて、文章作成からプログラミングまで不都合だった経験は皆無ですので、そのリテラシーにあたっては、当然のように、ひらがな入力できない理由はないこと、むしろ日本語の文字を意識しながら日本語の文章を作成するにはそのほうが良いこと、ブラインドタッチなどは百害あって一利なしと思っても差支えないことなどを説いて目鱗的に歓迎され大いに普及に寄与したものです。異和感の大切さこそを痛感

神奈川県印刷工業組合

事務局長 萩原 正敏



した経験でした。

ただ、今やこの両原則への抵抗は圧倒的に少数派でしょう。やむを得ない時代の流れだとしても、日本語と日本語文字の語感や表現上の独特の手応えが蹂躪され毀損されていっている日本語リテラシー衰退の流れかもしれないことを忘れるべきではないと思います。漢字が書けなくなることよりよほど深刻な、日本人にとって言葉をめぐる相当に恐ろしい事態がいつのまにか進行しているかもしれないのですから。昨今スマートフォンやタブレットで一本指入力になっているのは好ましい限りですが、果してタッチタイピングで損なわれた文字感覚の回復に間に合うかどうか。アナログやガラケーに対する根柢のない不当な蔑視ののさばりも笑止、なに、デジタルだって「指で数えられる」って程度の語源なのですから。

当組合は、横浜市大・影山摩子弥教授のご指導により「印刷業情報セキュリテーマネジメントシステム (PISM)」を創設いたしました。その普及に腐心しておりましたところ、産業クラスター研究会の皆様到手厚いサポートのお申し出をいただきました。そのご縁でこの度の巻頭言執筆お受けさせていただいた次第です。

## クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



## 新春のご挨拶

## ・・・今年の抱負・・・

明けましておめでとうございます。

当会も11年目を迎え、これまでご支援をいただきました関係者の皆様方に衷心より御礼申し上げます。

さて、本年は、慶応元年の横須賀製鉄所の鉄入れから150周年を迎えます。日本の近代産業はここから始まり、また海外との産業交流は横須賀から始まったのです。このときは幕末という厳しい状況の中で英断が下され、スタートしたのでした。

今年の経済・景気は好循環の実現が期待されていますが、これからの日本経済は、人口の減少により、拡大・成長路線から規模の縮小の時代を迎えるといわれています。特に、製造業の国内生産は厳しく、海外市場に一層の目を向けるという大きな流れは変わらないようです。また、昨今の報道によれば中小企業には、昨年来の急激な円安が輸入原材料費などの高騰により、大変厳しい経営環境になるといわれています。

そのような背景を踏まえ、本年の当会の活動目標は昨年度に引き続き法人会員との更なる関係強化に努めます。具体的には、企業殿の「持続性ある盤石な経営基盤をつくる」ために、①海外市場展開を初めとする各種のご相談、②マネジメントシステム(ISO、CSRなど)の認証・取得、



理事長 木下 武

③従業員・後継者教育などを主軸活動に、法人会員からのニーズ・要望などに迅速に対応した支援をしていきたい。さらには、友好団体とも一層の緊密化を図りたいと考えています。

また、会員間の連携をはかる具体的試みとして、隔月毎に、法人・個人会員を講師に自由な雰囲気での経営者交流会を開催していますが、法人会員22社及び個人会員30名の情報交換の場を築くことができ徐々に効果が発揮されつつあります。

一方、満10年の実績から産官学との関係構築は徐々に実績が出ております。横須賀市との協働推進事業の受託、横浜市立大学からの委託事業の受託、横浜市金沢区での活動や横浜市内の複数区において活動の輪を広げており、三浦市においても新入法人会員と共同で活動の拡大を図りたいと考えております。

先駆者の決断にも見られるように、状況の変化はチャンスでもあります。その変化を的確に捉えて、私達も遅れずに先人に続きたいものです。

### 【歳時記】断食

赤道を挟んで向かい合っているアジアの二つの回教国マレーシアとインドネシアに、もう三十年前になるがそれぞれ数年間滞在した。

回教徒の一日は、日の出前の礼拝で始まる。礼拝が始まる時間は回教寺院によって告げられる。回教寺院の尖塔に取り付けられたスピーカーから通報の音が町中に響き渡る。礼拝はその後就寝前の最後の一回まで一日五回ある。二回目は正午までの間、三回目は正午、四回目は日暮れ時で、毎回通報が響きわたる。大概の人はこれに沿って礼拝をする。サウジアラビアにある回教の聖地メッカに向かって！私のいた工場では二回目と四回目はしていなかった。回教徒の休日である金曜日は寺院に集まって皆で礼拝するのを奨励されているので、その日は昼休みを長くし寺院に行つて三回目正午の礼拝が出来るようにしていた。

そんな毎日を過ごしている内に回教徒最大の年中行事がやって来る。断食(プアサ)である。第九月一カ月の間。イスラム暦は純粋な太陽暦で閏月による補正を行わないため、毎年十一日ほど早まる。断食月(ラマダン)の開始と終了は、長老らによる新月の確認によって行われる。雲などで新月が確認できなかった場合は一日ずれる。この月の日の出から日没までの間、イスラム教徒の義務の一つ「断食」として、飲食を絶つことが行われる。旅行者や重労働者、妊婦・産婦・病人・乳幼児などは合理的な事情のある場合は断食を免除される。この時期人々は空腹やのどの渇きに耐える修行をする。そして、日没になると自由になり、家族揃って夕食を楽しむ。それが他の時期よりも充実する傾向にある。

この一カ月が過ぎると断食明け休みが数日あり、多くの人は実家に戻り、家族と共に祝う。断食明けは日本の正月にも匹敵する回教徒最大の祝い時期である。(近)



インドネシアの代表的料理の一つ、「ナシゴレン(焼き飯)」。食材は上が魚、下が焼き鳥。

## 法人会員紹介



株式会社オーバル

〒161-8508  
東京都新宿区上落合 3-10-8  
URL: <http://www.oval.co.jp>  
TEL: 03-3360-5061 (代表)  
FAX: 03-3365-8600  
横浜事業所  
取締役兼執行役員  
横浜事業所所長 小野 治  
〒236-8645  
神奈川県横浜市金沢区福浦 1-9-5

# 東証第一部に指定替えとなった 創業 65 周年を迎える流体計測のパイオニア

弊社は、2014年5月8日に東京証券取引所(以下、東証)市場第二部から第一部に指定替えとなりました。これもひとえに、関係者の皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。弊社が、東証第一部に指定替えを目指した目的については、①財務基盤の強化、②社会的信用度や知名度の向上による優秀な人材の確保、③社内管理体制の充実、④従業員のモチベーションアップ等があげられます。特に、優秀な人材の確保は、団塊の世代が定年を迎え、将来への重要課題であり、今回の大きな目的でありました。今回の東証第一部指定替えについては、2011年7月よりプロジェクトチームを立ち上げ、東証第一部に相応しい企業となるべく、内部統制の整備、業務改善、関係会社管理体制の整備等を推進してきました。



平成 26 年 5 月 8 日 東京証券取引所 一部指定替セレモニー写真

2013年12月に申請を実施し、2014年5月に東証より承認をいただきました。弊社は、東証第二部に上場してから既に50年以上が経過していたため、旧態依然となっていた業務もあり、現在の上場審査基準では適合し



セレモニー写真

ない業務もありました。特に、連結での予算実績管理の精度向上に大きな課題が残り、現在の管理方法を確立するまでに1年半近くを要すこととなりました。予算実績管理を含む内部管理体制の整備業務改善は、痛みを伴う改革も一部においてありましたが、今後の弊社の発展のため、非常に有意義であったと考えております。

代表取締役社長 谷本 淳



弊社は 1949 年に日本初となる容積式流量計をリリースし、現在、流量計などの「センサー事業」、流体計測制御に関連する「システム事業」、さらに製品の修理、調整、メンテナンスを行う「サービス事業」という3つの事業を展開しています。流量計は原理別に7種類に分類されますが、コリオリ流量計、容積流量計、渦流量計の3種類の売り上げが、流量計全体の約9割を占めています。この主力3製品に加え新たな柱としてパイプ内に障害物がなくエネルギーロスが少ない、超音波流量計の開発にも積極的に取り組んでいます。海外に比べて普及が遅れる日本では、今後大きな需要が期待できます。さらに、FCV(燃料電池自動車)向けの水素ステーションで使用する高圧水素流量計を世界で初めて開発し市場から注目を頂いております。

弊社の存在意義である「オーバルは、オーバルを支え、育てる人々のために存在する。」企業であるべく、社会的貢献をはたしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今後とも、関係者の皆様より一層のご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



株式会社オーバル 横浜事業所 (横浜市金沢区)



## 歴史散歩

## 小笠原諸島と咸臨丸

個人会員 堀家 彰生

## 瀬戸内海塩飽諸島と南の島小笠原諸島の縁

2014年1月に故郷、香川県丸亀市の塩飽本島(しわくほんじま)を訪問。瀬戸大橋から見えるこの島に咸臨丸渡米の碑があり咸臨丸乗組み水夫のほとんどが塩飽諸島出身であったことを知った。

4月に横須賀市の浦賀ドック跡地で咸臨丸フェスティバルがあった。毎年開催されている国際イベントである。ここで咸臨丸子孫の会の方々にお会いし同会が主催する「小笠原訪問2014」に同行が許された。

7月7日、「おがさわら丸」で東京港竹芝桟橋を出港。朝10時に出て翌朝11時半に小笠原父島二見港に着くという高速定期旅客船。咸臨丸が片道13日かかった距離1000kmを25時間半で結ぶ。八丈島の近くを通過するとき携帯電話までつながり驚いた。

東京都小笠原村役場の歓迎を受け役場の車で咸臨丸墓道を皮切りに全島くまなく案内していただき、開拓時の貴重な資料を拝見できた。

小笠原諸島は平成23年に世界自然遺産に登録された動植物の宝庫でありホエールウォッチングやマリンスポーツで若者の楽園でもある。おがさわら丸が父島を出港する時は恒例のお別れ太鼓やプレジャーボートの見送りを受け観光立島の面目躍如たるものと感動した。



咸臨丸は文久元年(1861)12月19日、父島二見港に入港。そのとき国旗を建てた旭山から港を見下ろし先人を偲んだ。

## 歴史の観点

小笠原諸島が現在、日本国領土であるのは咸臨丸が幕府使節随行艦として渡米の後、即、小笠原調査として小笠原の父島を訪問し日本国旗を建てたことである。その場所に立ち咸臨丸が停泊した地点を遠望して先人の努力に脱帽した。幕臣だけでなく諸藩の藩士も参加しており、それが引き続き八丈島からの移住政策となり明治9年、明治政府による世界に対する実効支配宣言につながる。ペリー提督は浦賀の前に父島に寄港しているから、アメリカ領になっていても不思議ではないのである。

もう一つの歴史は太平洋戦である。戦争の末期、小笠原諸島の一つである硫黄島の攻防があった。硫黄島から更に南1000kmのところにあるサイパン島はすでに陥落し、そこから東京空襲に向かう爆撃機B29にとっては硫黄島からの迎撃や父島での無線の傍受は脅威であった。何よりも被弾してサイパンまで帰還できない爆撃機が不時着できる飛行場が欲しかったのである。

敗戦による米軍直接統治、昭和43年の小笠原返還を経て、平成7年に小笠原村は平和都市宣言をした。



7月11日 おがさわら丸 出港。  
乗客が宿泊したホテルから繰り出されたプレジャーボートの見送りの人たちは最後に海に飛び込んで感動のお別れとなる。

## 事務局からのお知らせ

- 9月17日 今年度第3回の経営者交流会が開催され、法人会員(有)湘南安全硝子の濱田会長による「私の人生」の講話があり、参加会員で賑やかに懇談しました。
- 秋たけなわ、法人会員様と一緒に10月18日「金沢まつり」、11月8日～9日「よこすか産業まつり」に出展・参加しました。テーマは地域経済の活性化と環境でした。
- 平成26年度 第3回理事会が12月2日に開催され、平成26年度上期活動実績の報告をしました。
- 平成27年2月は「神奈川県中小企業活性化推進月間」です。神奈川県では各地で企業や団体など多様な担い手と連携・協働しながら各種支援事業を集中的に展開しますのでご参加ください。案内のポスターは別途ご案内中です。

## 5. 新規入会者の紹介

法人会員 (有)藤森商店(のりの藤森)(横浜市) (有)守谷園(三浦市)

(有)大金工務店(横須賀市)

個人会員 阿部 勝男(横須賀市在住)

(事務局 佐々木興吉)

## 部会活動紹介

### 地域の産官学連携支援を目指して

### 産官学連携支援部会

当部会は法人会員と大学や研究機関との間に立ち、法人会員の抱かえている現在の技術的な問題解決と、将来の企業像の設計、あるいは大学などにおけるシーズの活用も含めた支援展開を行うことを目的として、当会発足以来活動をしています。

本年度活動計画は神奈川県産業技術センター殿や横須賀産業振興財団、横須賀市民活動サポートセンター殿の依頼案件の対応と連携を深めることですが、これまでのところそれぞれ散発的な活動に終わっています。

また、行政や団体で行われてきた講演会やセミナーにはこまめに参加していますが、その内容を法人会員や地域の中小企業に案内するまでには至っていません。

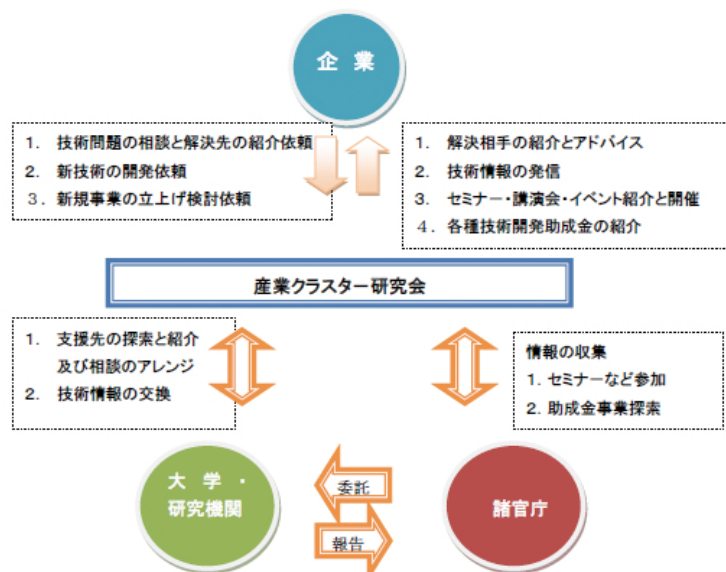
本部会活動については会内でたびたび議論をし、次の図式の通り活動の内容を取りまとめているのですが、活動を推進する人材の不足と“需要と供給”の観点より大変難しい活動と感じています。この場合、“需要”とは技術を求める側、すなわち企業側です。“供給”とは技術や情報を提供する側、すなわち大学や研究機関です。経済産業省が進める産官学連携事業における高度な技術分野やプロジェクト的な技術開発への応募は大手企業と大学を中心に活発ですが、地域の現場で即日必要とする技術の解決や検討を求めてもなかなか相手が見つからない状

況があります。検討する側にとっても関係するテーマがマッチしないということと、費用の問題が根幹にあるように思われます。そのような中、当部会としては地域らしさと細やかな情報の提供を中心にして活動をしていきたいと考えており、そのためには、法人会員や地域の中小企業の製品技術の開発支援を念頭に、地域の大学の産官学連携支援窓口とのコンタクトを密にして人脈形成をすることが大事と思っています。

関東経済産業局が進める「産官学連携」や全国の大学の先生が中心となって活動をしている「NPO 法人産学連携学会」などの情報を把握し発信することは大変専門的な作業となります。また、対象とする分野も多岐に亘るため特定する必要があるでしょう。

過日、三浦市で開催された横浜市立大学、かながわ信用金庫殿 共催の「地域活性化シンポジウム in 三浦」のシンポジウムは産官学連携の活動として大変示唆に富むものでした。図式にも記載の地域中小企業への技術情報の発信とあわせてセミナー・講演会・イベントの紹介と開催は今後、私たちが取組むべき一つの活動の方向となると考えています。

私たちは「ものづくり」の現場を応援します。企業の皆さんからの相談をお待ちしています。



(部会長 佐々木 興吉)

## トピックス

## 金沢まつり「いきいきフェスタ 2014」および「よこすか産業まつり 2014」への出展

第40回金沢まつり「いきいきフェスタ 2014」は10月18日(土)に横浜市金沢の海の公園で開催され、一方、よこすか産業まつりは11月8日(土)、9日(日)に三笠公園で行われ、両まつりに出展しました。

当会は「地域の活性化を応援します」というコンセプトで、1) 環境と省エネ(LEDによる省エネ)の啓蒙と推進、2) 地場産業の応援、3) パネルによる当会の紹介並びに会員募集に取り組みました。

「環境と省エネ(LED)」では昨年に続き(株)大倉物産



金沢まつり出展テント風景



意見板に記載する高校生

と協賛し、LED電球・ソーラー付き工作キット、皮膚にやさしい天然の蜂蜜蝨を原料にしたハンドクリームの販売を応援。「地場産業の応援」では新しく入会した(有)藤森商店との協賛で金沢の野島沖産ののりの販売、よこすか産業まつりでは走水ののりの販売を応援しました。ハンドクリームは御婦人方に大変好評で、また海苔は地場産業ということもあり盛況でした。

新しい試みとして当会のPRにつながる意見板を設け、「どうしたら横須賀の人口減少に歯止めが掛かるか」について来場者に自由に意見を書いてもらいました。いろいろ意見が記入され、当市の課題の一端を見ることができました。

金沢まつり、よこすか産業まつりへの出展は地域の環境と省エネの啓蒙・推進および地場産業の応援・活性化に微力ながら寄与したものと思います。

(環境事業部会 植谷 祐一)

## 横須賀市市民協働推進セミナー「市民公益活動団体の広報力アップ講座」を終えて

昨年度の「経費をかけずにマスコミに報道してもらう方法」に引き続き本年も、市民生活課からの委託で「市民公益活動団体の広報力アップ講座」を開催いたしました。

前回の聴講者から「ホームページ制作の話聞いても良く解らない？」との多くの声を受けて本年は、9月と11月の2回「市民公益活動団体に会ったホームページをつくり活動状況を市民に伝えよう」をテーマに無料でホームページを作ってもらった講座を企画しました。

ホームページ制作に困っておられる方々の原因の多く



は、制作の費用、運営の費用であり、費用負担を軽減するには自作する必要がある、自作には何処から手をつけて良いのか解らない・・・のが本音のようだと見当をつけ資料集めに入りました。

制作用フリーソフトは種々ある、無料のレンタルサーバーも幾らでもある、制作のマニュアル本も書店に溢れている、それなのになぜ制作できないか？これらにはインターネットの基礎部分の話がなく、基礎が理解できていないのでホームページ製作途中で挫折しているのだと想像できました。そこでインターネットの基礎からお話することと決めました。制作の技術を期待している方々にはつまらない話になってしまいましたが意外と耳を傾けてくれて、無料のレンタルサーバー・無料の制作ソフト等費用を掛けずにホームページが作れるとお話すると、種々質問が出され、再度挑戦してみるという方まで現れ、幾らかお力になれたかと思っております。

・・・諦めずに何度も挑戦して下さい・・・

(企業支援事業部会 片平 悌一)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

Tel : 045-781-8025

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武